

経営比較分析表（平成30年度決算）

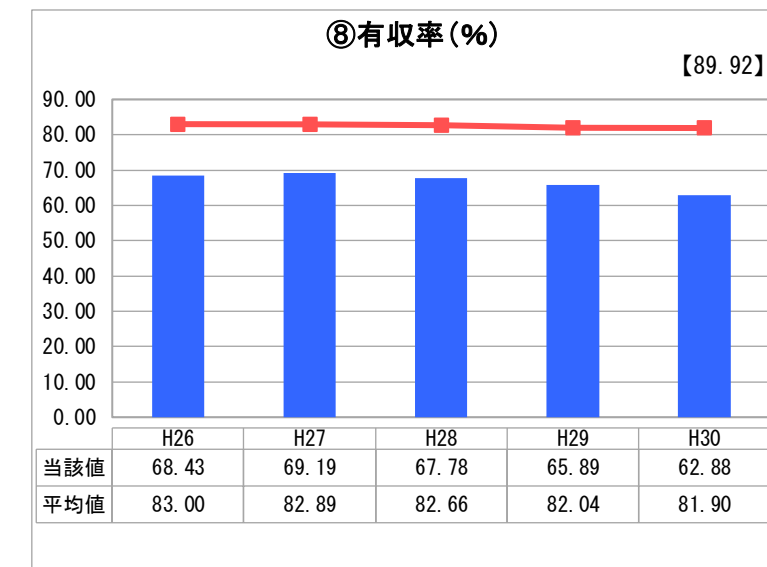
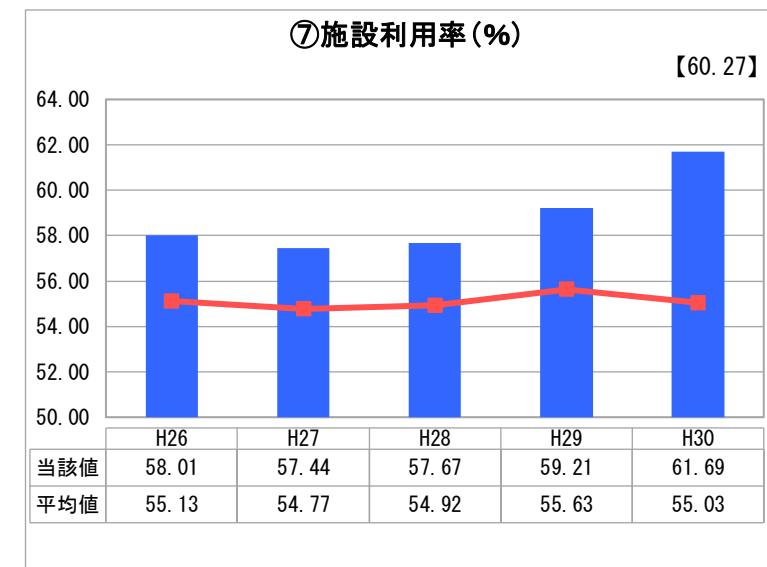
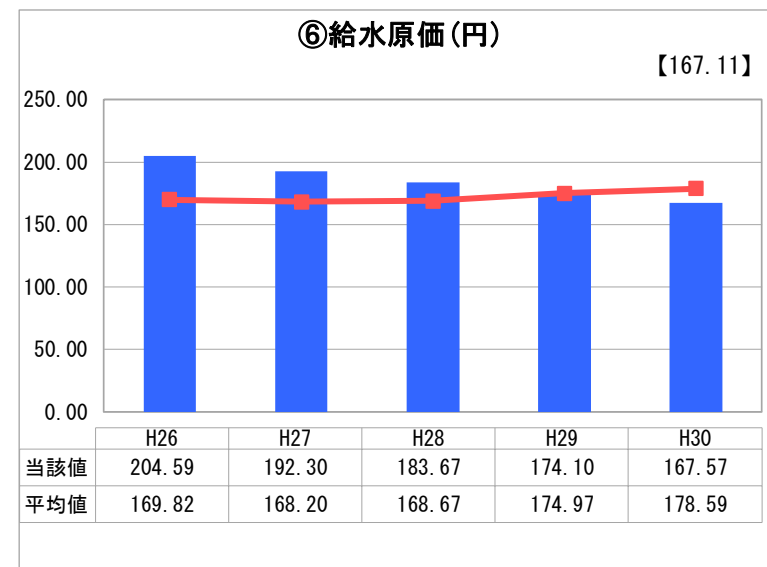
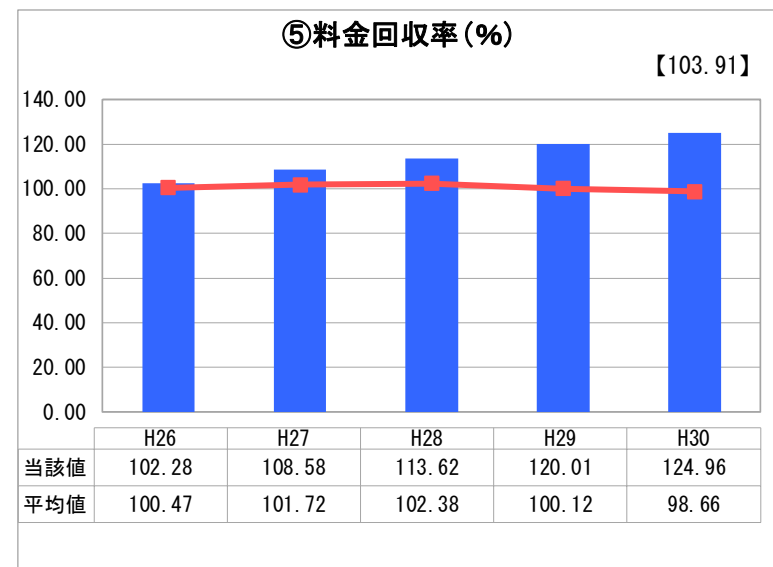
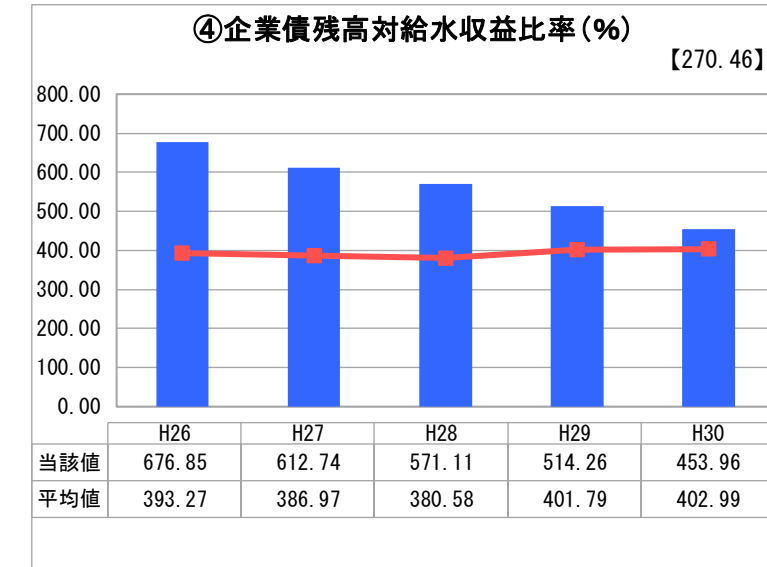
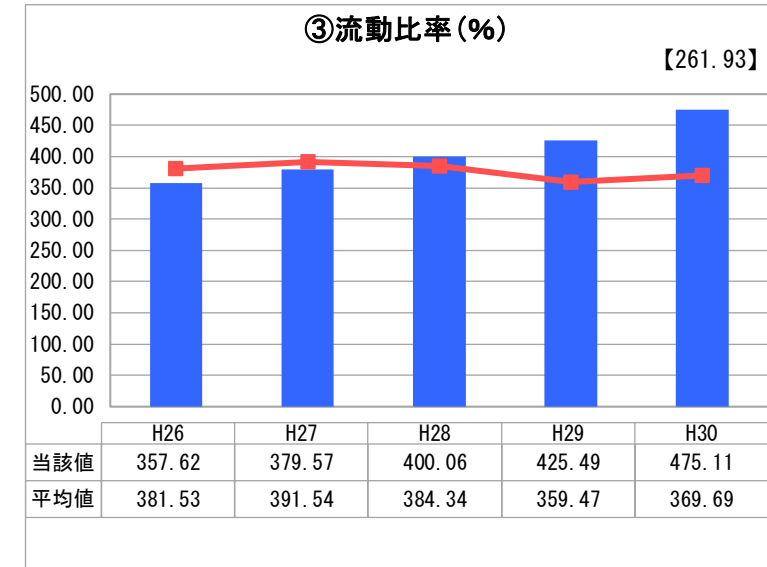
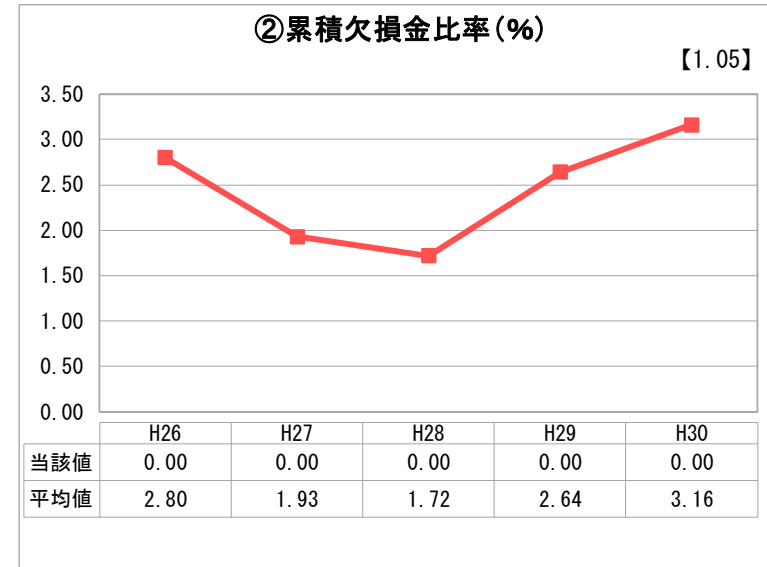
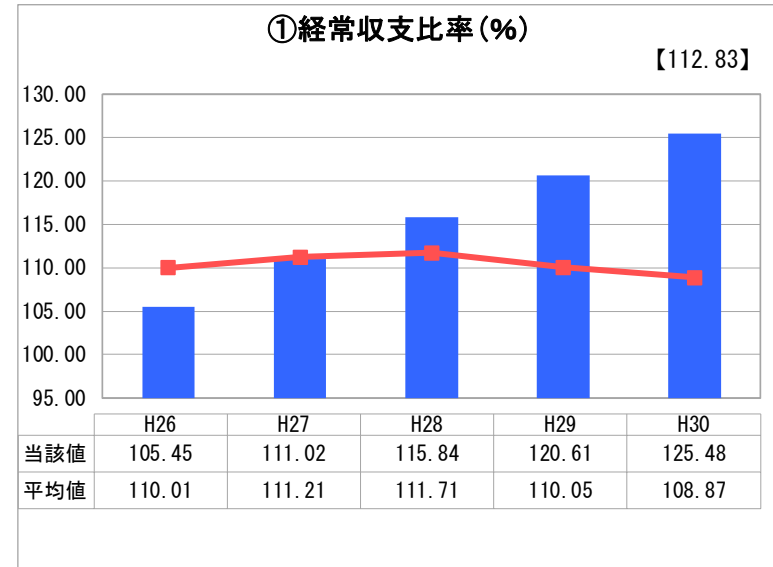
栃木県 那須烏山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.58	80.93	3,866	

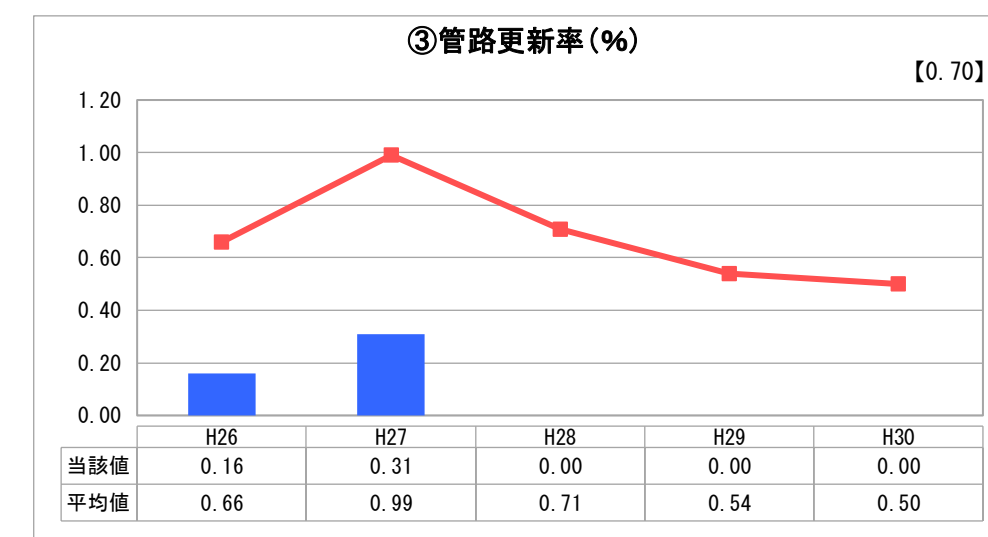
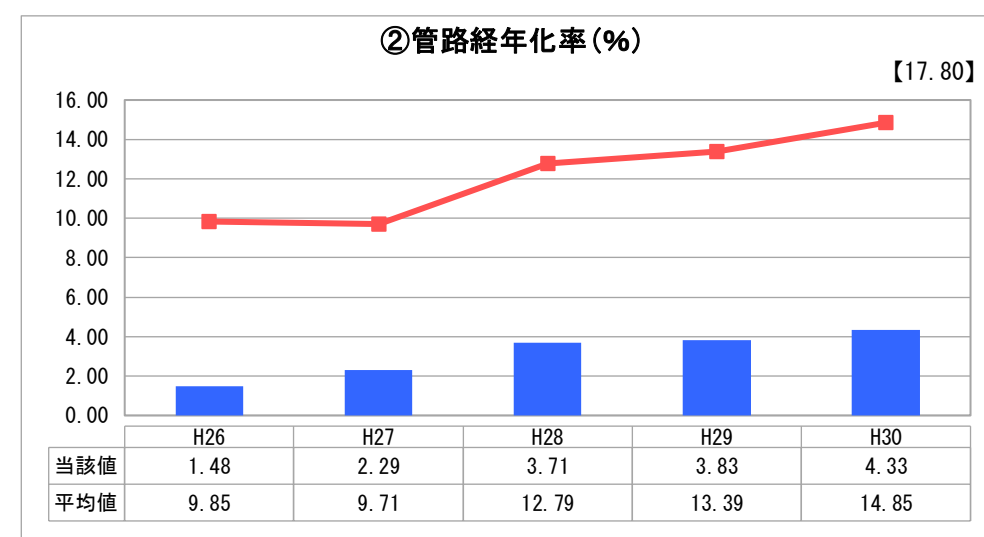
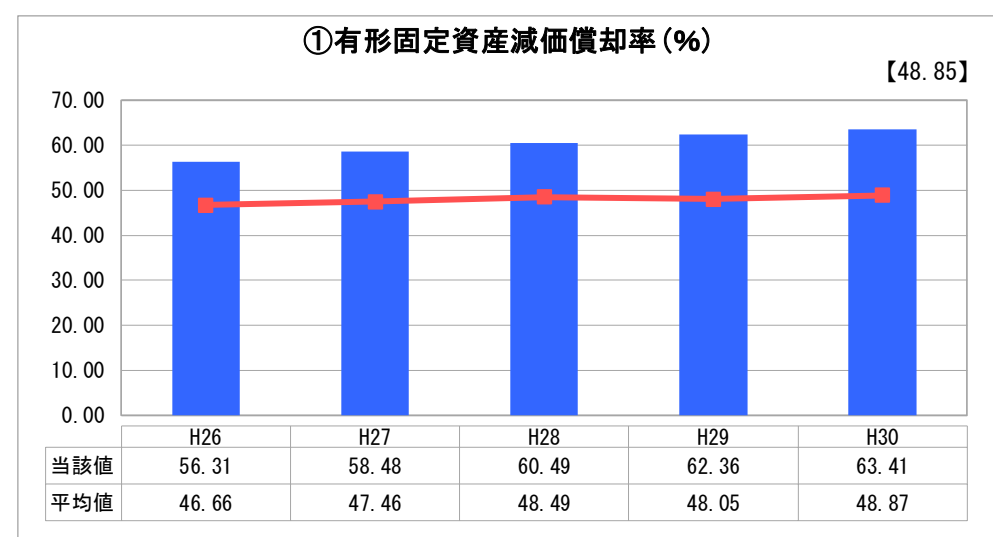
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,654	174.35	152.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,400	102.75	208.27

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」「料金回収率」ともに100%を超えており、「流動比率」も平均を上回っていることから、健全運営であると言える。
また、「給水原価」についてもこれまで平均より高い傾向があったが、経常費用の減少により平均を下回るようになってきた。
しかしながら、給水収益は減少し続けていることから、健全経営を維持していくためにも引き続き費用の削減に努めていく必要がある。
一方で、「有収率」は平均に比べて非常に低く、有収率の向上対策として漏水調査及び修繕を実施しているものの、有収率の減少が止まらない状況である。漏水調査・修繕に加えて計画的な管路更新により有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」が平均以上かつ増加しており、老朽化した施設が多くなっている状況である。
また、「管路経年化率」は平均より低いものの年々増加しており、管路の更新が必要な状況になっているが、「管路更新率」からも管路更新がほとんど進んでいない状況である。

全体総括

現在の指標からは健全経営と言えるものの、施設や設備の老朽化は類似団体と比較しても確実に進んでいる。給水収益が減少し続けている中で今後大きな更新需要が訪れることから、収支の整合性が保たれた投資になるよう、統廃合・ダウンサイジングなども行いながら計画的に実施していく。